

2010年11月30日



# 資料館通信 第63号

ふじみ野市立

上福岡歴史民俗資料館  
大井郷土資料館

埼玉県ふじみ野市長宮1-2-11 TEL 049-261-6065  
埼玉県ふじみ野市大井中央2-19-5 TEL 049-263-3111



大井郷土資料館  
**特別展**

## 川越街道と新河岸川 ～江戸と小江戸を結ぶ2つの道～

平成23年  
1月16日(日)  
まで開催

大井郷土資料館の常設展示のテーマは「みち」です。市内には他の地域との交流がうかがえる資料や、鎌倉街道などの古道も残され、太古より交通・交易の手段として、道や川を使っていたと思われます。

江戸時代に入ると、幕府は大名の配置や、街道・河川網の整備に力をそそぎ、なかでも川越城は江戸の北の守りとして、幕府の重役にもなった松平信綱や柳沢吉保などを城主にするほど、重要な位置を占めていました。

将軍のお膝元の「江戸」と、川越城や城下町、仙波東照宮などがある「小江戸・川越」をつなぐ道として、人々の往来には「川越街道」を、物資輸送にはたくさんの荷物を積んだ船が行き来できるような「新河岸川」を整備していきました。この2つの道はいずれも市内を通り、川越街道の宿場の一つ「大井宿」と、新河岸川の船着場の一つ「福岡河岸」が

設けられたことは、ふじみ野市の歴史を語る上でもたいへん重要なことです。どちらも多くの人々に利用され、周辺の村々にも経済や文化の面で、大きな影響を与えていきました。

今回大井郷土資料館では、川越藩や地域の人々にとっても大切な道であった川越街道と新河岸川の2つの道をテーマに特別展を開催いたします。2つの道の間で起こった「早船争論」などもとりあげながら、それぞれの道の歴史や特色を紹介した展示会です、ぜひご覧下さい。

- 会場：大井郷土資料館 1階学習室及び常設展示室
- 入館料：無料
- 開館時間：午前9時30分～午後4時30分
- 休館日：毎週月曜日・年末年始(12月28日～1月4日)

平成22年度  
大井郷土資料館  
特別展

# 川越街道と新河岸川

## ～江戸と小江戸を結ぶ2つの道～ の紹介

### I 江戸と小江戸が結ばれるまで

江戸時代に入ると東海道・中山道などの五街道や河川の整備が行われていきますが、川越街道と新河岸川は、江戸と川越を結ぶ交通路として重要な役割を果たしていたことを紹介します。

### II 陸の道 ～川越街道と大井宿～

川越城主の初国入りや参勤交代、仙波東照宮への参詣、鷹狩りだけでなく、庶民にとっても伊勢参りなどに川越街道は盛んに利用されました。川越街道の宿場の一つ「大井宿」や助郷(入足や馬の補充を課す制度)についてもとりあげます。

### III 川の道 ～新河岸川と船の利用～

寛永15(1638)年に焼失した仙波東照宮・喜多院(川越市)の再建資材を運ぶために利用されたと伝えられる新河岸川は、川越城主松平信綱の頃に本格的に整備され、物資輸送の道として多くの船が行き来しました。

市内にあった福岡河岸、天保2(1831)年頃から台頭してきた「早船」、新河岸川の荷船に関する資料を中心に展示します。

### IV 早船争論と江戸湾警備の影響

川越街道と新河岸川の両方へ大きな影響を与えた出来事に、江戸へ行く客を早船にとられたとして宿場側から訴えを起こした「早船争論」と、川越藩の江戸湾警備があります。争論における街道側と舟運側の言い分、江戸湾警備にともない家臣の通行が増えた川越街道、新河岸川の「御用船」運航などに関する資料を展示します。

### V 第3の道「東上線」の登場

東京と川越を結ぶ新しい道として大正3(1914)年に「東上鉄道(現東武東上線)」が開通し、大井宿や福岡河岸にかわって「上福岡駅」が開設されました。近代化の中で、2つの道が大きく変わっていく様子を紹介します。



本陣の什器<複製> 大井郷土資料館蔵



新河岸河(新河岸川)改修起工式の盃  
吉野國男氏蔵

#### ●特別展記念講演会

## 「新河岸川舟運について～早船運航と川越街道～」

日 時：12月5日(日)午後1時30分～3時30分

会 場：大井郷土資料館 研修室

講 師：高木文夫氏(元市立上福岡歴史民俗資料館長)

参加費：無 料

定 員：50人

申 込：大井郷土資料館(☎049-263-3111)へ



上福岡歴史民俗資料館の収蔵資料から

# 星野仙蔵をめぐる画家たち

## ～尾形月耕を中心に～

星野仙蔵(十代)は明治から大正にかけ、新河岸川の船問屋福田屋の当主として、また政治家として地域の発展に寄与した人物です。江戸時代以来、新河岸川は川越をはじめとする流域の産物を江戸に、また江戸からの物資を川越地域にもたらす水運の要路でした。

当主が代々仙蔵を名乗った星野家は七代仙蔵の頃から福岡河岸の問屋を営み、後の福田屋の繁栄の基礎を築きました。星野仙蔵(十代)は、福岡河岸の船問屋としてだけでなく、衆議院議員として国政に尽力する一方、東上線の誘致を積極的に進めるなど地域の発展に寄与しました。今回は、十代星野仙蔵の絵画コレクション、中でも仙蔵と交流の深かった尾形月耕の作品を紹介します。尾形月耕は、文部省美術展覧会(通称「文展」)に入賞

するなど、画家としての華々しい活動の一方で、新聞や雑誌小説の挿絵画家としても創作を行った。明治から大正時代にかけての日本画家です。コレクションの大部分が月耕の作品ですが、これは月耕との関係が、愛好家と画家との関係というよりは画家と後援者との関係であったことによるものと考えられます。



星野仙蔵と七福神図



月に駿馬図

尾形月耕：明治・大正期の画家。江戸京橋の生まれ。独学で画法を習得し、明治期絵入りの新聞として人気のあった「朝野新聞」をはじめとする新聞の挿絵や雑誌小説の口絵などを描く挿絵画家として活躍しました。一方、本格的な画家として明治15年第1回内国絵画共進会に作品を発表するなど幅広い分野での制作を行っています。画家としてのこうした活動の中でその才能を河鍋晩斎に認められ、晩斎の勧めで出した錦絵が評判になり、月耕の名は広く知られるようになります。明治31年には岡倉天心の設立した日本美術院に迎えられ制作を行っています。また、絵画だけでなく絵の初心者のための絵手本である「月耕漫画」も執筆しています。

# ふじみ野市の両資料館への資料の寄贈

平成21年9月から平成22年10月まで次の方々より、各種の文化財資料を寄贈していただきました。紙上をもって厚くお礼申し上げます。

## 市立上福岡歴史民俗資料館分

平成21年

- 11月29日 算盤(明治時代)  
富士見市 町田三朗氏  
12月5日 文久永宝(市内で採集)  
市内 原田達也氏

平成22年

- 2月2日 穴掘組控簿(駒林四番組 昭和28年)・  
葬列に使う紙飾り  
市内 野沢裕司氏  
2月4日 顕微鏡一式  
市内 第7児童館  
3月4日 衣装箱・荒神様・のこぎり他  
市内 伊藤信男氏  
3月17日 弾薬箱(浅野カーリットで使用)  
川越市 神藤トヨ子氏  
9月22日 みの  
市内 杉岡久代氏

## 市立大井郷土資料館分

平成21年

- 10月13日 大山灯籠  
市内 大山講市沢講中

平成22年

- 10月10日 テープレコーダー他  
市内 有住教保氏



東京第一陸軍造兵廠川越製造所の下請工場で、川越市登沼にあった浅野カーリットの弾薬箱

## ◆資料の紹介◆

### おおやまどうろう せきそんさま ～大山灯籠(石尊様)～

かつては市内の各地区で、雨乞いや農耕の神として古くから知られている「大山(神奈川県・標高約1252m)」を信仰の対象にした「大山講」が結成され、中には大山の夏開き(夏山)の間、「石尊様」とよぶ灯籠に献灯する風習を伝える地区もありました。

この灯籠は市沢地区の大山講で使われていたもので、地区の中心部に立てて、夏山の約1ヶ月間あかりを灯したそうです。

灯籠自体は昭和62年7月に作り替えたものですが、台座の石には大正10(1921)年の年号が刻まれているので、市沢地区では大正時代からすでに献灯する風習があったと思われます。

この灯籠は木製で、組み立て式になっており、2本の横木を支柱の中で十字に組ませ、さらに四方を囲む欄に固定できるような仕組みになっています。

市内をはしる地藏街道も含め、各地に「大山道」とよばれる道があり、江戸時代はこれらの大山道を通って大山へ行ったかと思われます。灯籠にあかりを灯したのは、大山参りをする人々が、夜でも道に迷わないようにしたからだといわれています。この灯籠の他にも市内では、

旧川越街道沿いに残る「角の常夜灯(石製)」や三角浅間神社内に移された石灯籠などでも行われていました。

大山講をはじめ多くの講は、現在行われなくなり、講のことを知らない人も増えてきています。この市沢地区の「石尊様」は、大山講の風習を伝える貴重な資料といえましょう。

